

2022年3月期 | 第108期

第2四半期 **決算説明資料**

2021年11月18日
フタバ産業株式会社
(# 7241)



FUTABA



1. 2022年3月期 第2四半期 決算概況

2. 2022年3月期 通期業績見通し

参考資料

連結決算概況

〈連結〉 決算要約

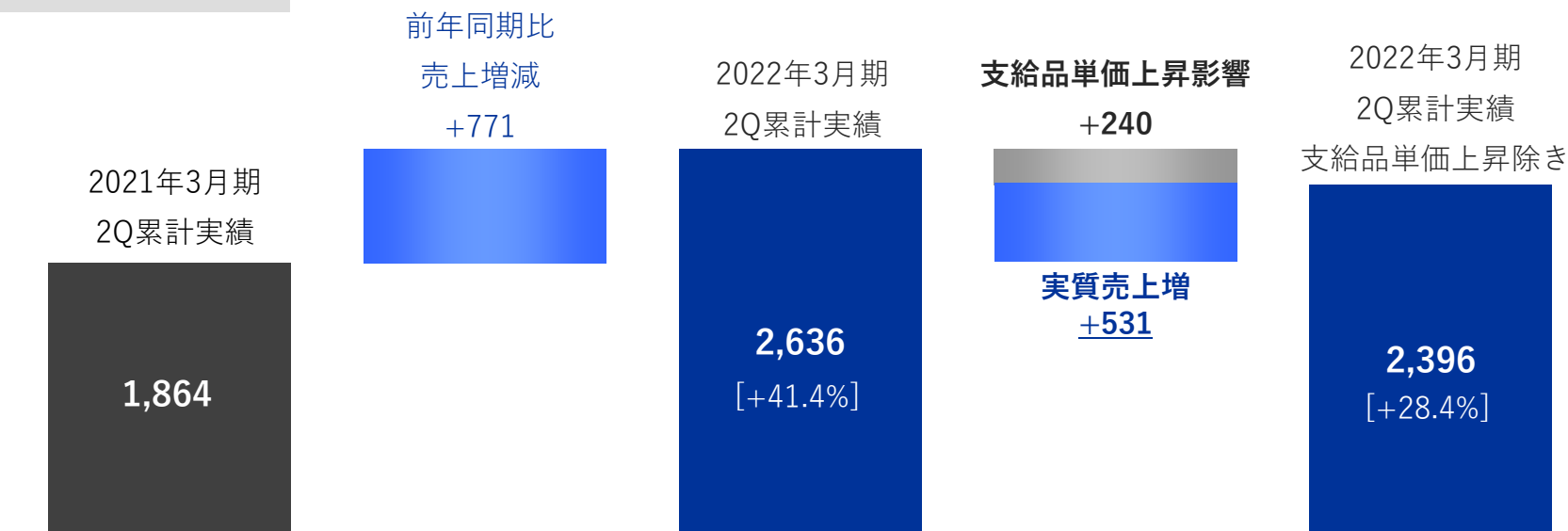
3

単位：百万円

	2022年3月期 2Q累計実績	2021年3月期 2Q累計実績	増減	増減率	2022年3月期 2Q累計公表値	増減
売上高	263,631	186,463	+77,168	+41.4%	267,000	▲3,368
営業利益	1,297 (0.5%)	▲4,514 (▲2.4%)	+5,812	—	3,900 (1.5%)	▲2,602
経常利益	1,672 (0.6%)	▲4,355 (▲2.3%)	+6,028	—	4,000 (1.5%)	▲2,327
親会社株主に 帰属する 当期純利益	▲1,359 (▲0.5%)	▲4,374 (▲2.3%)	+3,015	—	1,600 (0.6%)	▲2,959
※（ ）内は売上高比率を表示						
為替レート (1ドル)	109.8 円	106.9 円	2.9円の円安			

◆ 売上高

[] 増減率 単位：億円



- ・売上高は前年同期比で+771億円の増収
- ・支給品単価上昇影響（+240億円）を受け、実態以上に増収に見えている
- ・支給品単価上昇影響を除くと+531億円の増収

支給品単価上昇

- ・排気系部品に使用される触媒の支給価格が上昇（貴金属価格高騰のため）
- ・売上と仕入が同額増加するため利益影響はない

〈連結〉 営業利益の増減分析 前年同期比

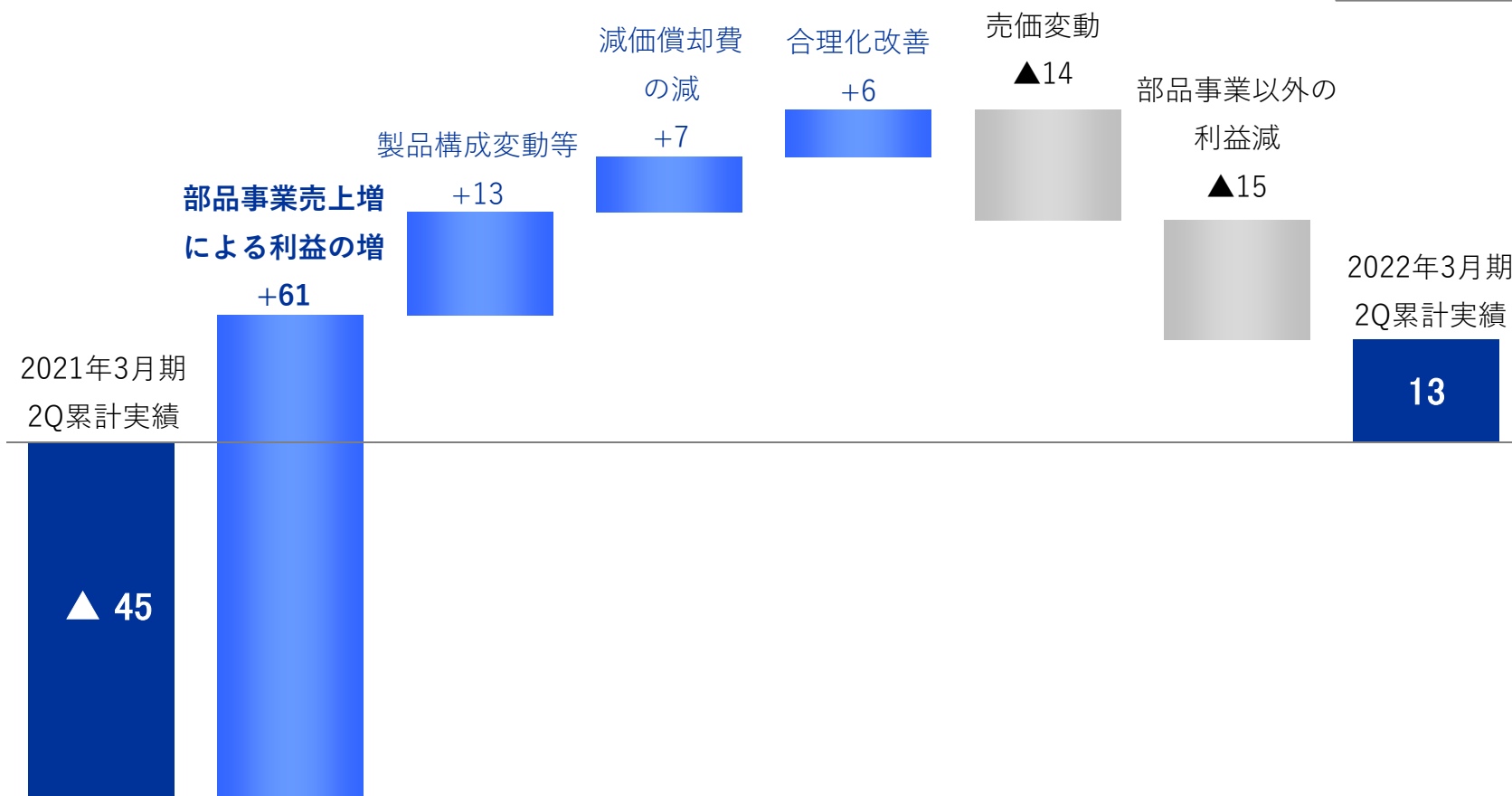
5

営業利益の増減 +58億円 (▲45億円 → 13億円)

1Q : +94億円 2Q : ▲36億円

単位：億円

■ 増益要因
■ 減益要因



1Q	▲62	+86	+14	+5	+4	▲7	▲8	32
2Q	17	▲25	▲ 1	+2	+2	▲7	▲7	▲19

〈連結〉セグメント別売上高と営業利益 前年同期比

6

単位：百万円

		2022年3月期 2Q累計実績		2021年3月期 2Q累計実績	増減	増減率	備考
日 本	売上高	118,586		95,666	+22,919	+24.0%	支給品単価上昇影響 +58億円
	営業利益	▲1,149 (▲1.0%)		▲4,202 (▲4.4%)	+3,052	—	
北 米	売上高	49,621		37,645	+11,975	+31.8%	支給品単価上昇影響 +39億円
	営業利益	▲110 (▲0.2%)		▲1,264 (▲3.4%)	+1,154	—	
欧 州	売上高	18,017		12,072	+5,944	+49.2%	支給品単価上昇影響 +11億円
	営業利益	65 (0.4%)		33 (0.3%)	+31	+94.1%	
中 国	売上高	45,377		33,850	+11,526	+34.1%	支給品単価上昇影響 +24億円
	営業利益	1,812 (4.0%)		470 (1.4%)	+1,341	+285.0%	
アジア	売上高	38,078		14,142	+23,936	+169.2%	支給品単価上昇影響 +108億円
	営業利益	493 (1.3%)		113 (0.8%)	+379	+333.7%	
連結調整	売上高	▲6,048		▲6,914	+865		
	営業利益	185		333	▲147		
合 計	売上高	263,631		186,463	+77,168	+41.4%	支給品単価上昇影響 +240億円
	営業利益	1,297 (0.5%)		▲4,514 (▲2.4%)	+5,812	—	

※（ ）内は売上高比率を表示

〈連結〉セグメント別売上高と営業利益 1Q(4-6月)前年同期比 7

単位：百万円

		2022年3月期 1Q(3ヶ月)実績		2021年3月期 1Q(3ヶ月)実績	増減	増減率	備考
日 本	売上高	62,238		38,089	+24,149	+63.4%	支給品単価上昇影響 +15億円
	営業利益	765	(1.2%)	▲4,469	+5,235	—	
北 米	売上高	26,752		9,882	+16,869	+170.7%	支給品単価上昇影響 +22億円
	営業利益	689	(2.6%)	▲1,369	+2,058	—	
欧 州	売上高	12,626		4,846	+7,779	+160.5%	支給品単価上昇影響 +6億円
	営業利益	527	(4.2%)	▲73	+600	—	
中 国	売上高	21,941		11,683	+10,257	+87.8%	支給品単価上昇影響 +4億円
	営業利益	890	(4.1%)	▲682	+1,573	—	
アジア	売上高	16,549		1,938	+14,610	+753.6%	支給品単価上昇影響 +24億円
	営業利益	332	(2.0%)	▲140	+473	—	
連結調整	売上高	▲3,179		▲2,403	▲775		
	営業利益	1		477	▲476		
合 計	売上高	136,928		64,037	+72,891	+113.8%	支給品単価上昇影響 +71億円
	営業利益	3,206	(2.3%)	▲6,258	+9,465	—	

※（ ）内は売上高比率を表示

〈連結〉セグメント別売上高と営業利益 2Q(7-9月)前年同期比 8

単位：百万円

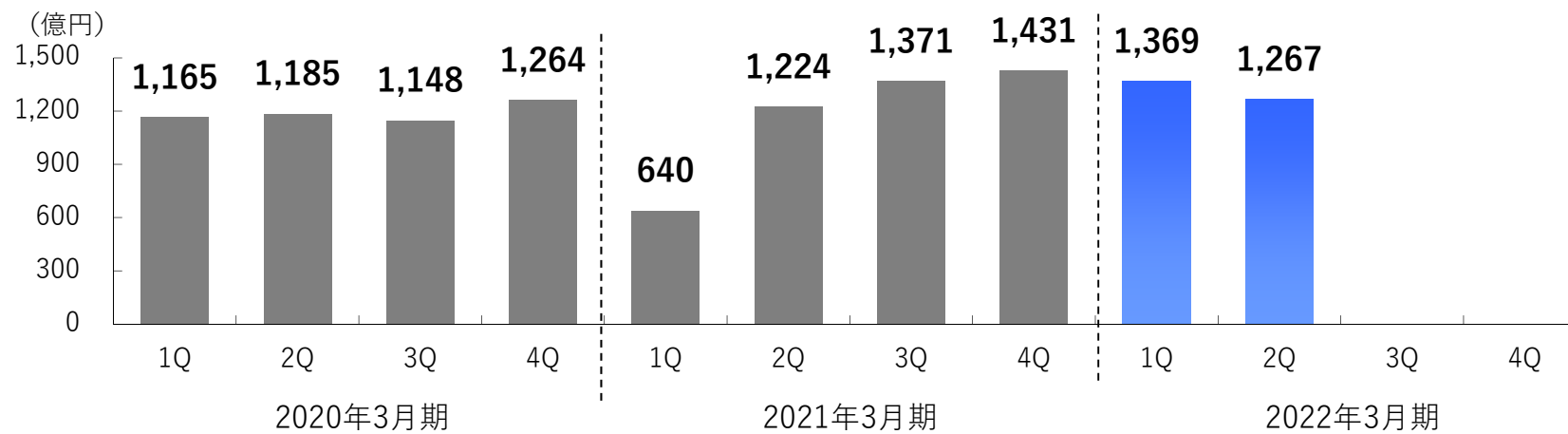
		2022年3月期 2Q(3ヶ月)実績	2021年3月期 2Q(3ヶ月)実績	増減	増減率	備考
日 本	売上高	56,347	57,577	▲1,230	▲2.1%	支給品単価上昇影響 +43億円
	営業利益	▲1,915 (▲3.4%)	266 (0.5%)	▲2,181	—	
北 米	売上高	22,868	27,762	▲4,894	▲17.6%	支給品単価上昇影響 +17億円
	営業利益	▲799 (▲3.5%)	105 (0.4%)	▲904	—	
欧 州	売上高	5,391	7,226	▲1,835	▲25.4%	支給品単価上昇影響 +5億円
	営業利益	▲461 (▲8.6%)	106 (1.5%)	▲567	—	
中 国	売上高	23,436	22,167	+1,269	+5.7%	支給品単価上昇影響 +20億円
	営業利益	922 (3.9%)	1,153 (5.2%)	▲231	▲20.0%	
アジア	売上高	21,529	12,203	+9,326	+76.4%	支給品単価上昇影響 +84億円
	営業利益	160 (0.7%)	254 (2.1%)	▲94	▲37.0%	
連結調整	売上高	▲2,869	▲4,511	+1,642		
	営業利益	184	▲143	+327		
合 計	売上高	126,702	122,426	+4,276	+3.5%	支給品単価上昇影響 +169億円
	営業利益	▲1,908 (▲1.5%)	1,743 (1.4%)	▲3,651	—	実質売上は▲127億円減収

※（ ）内は売上高比率を表示

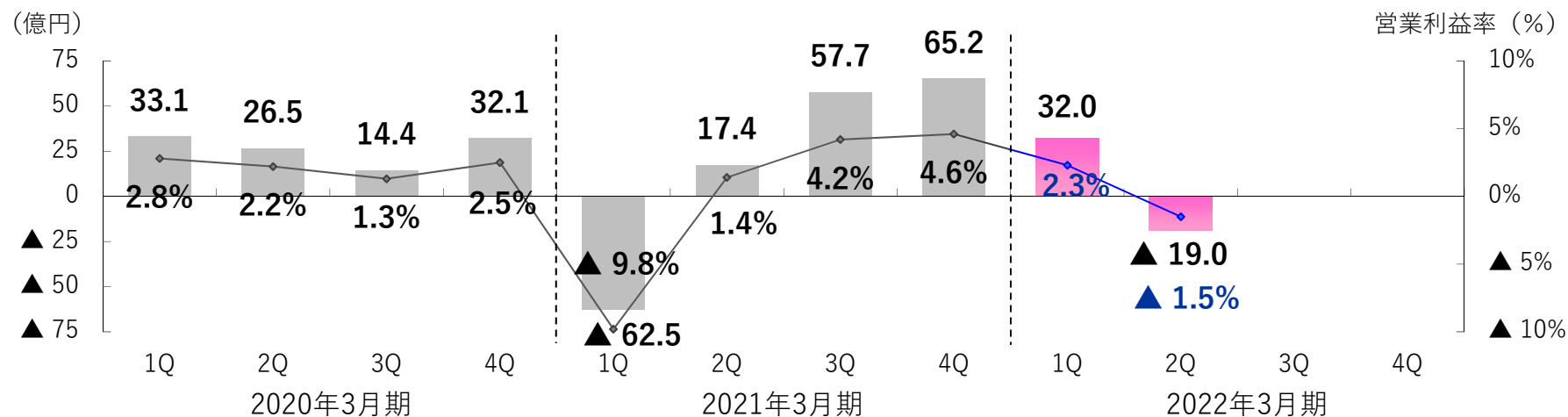
〈連結〉売上高と営業利益の四半期推移

9

◆ 売上高



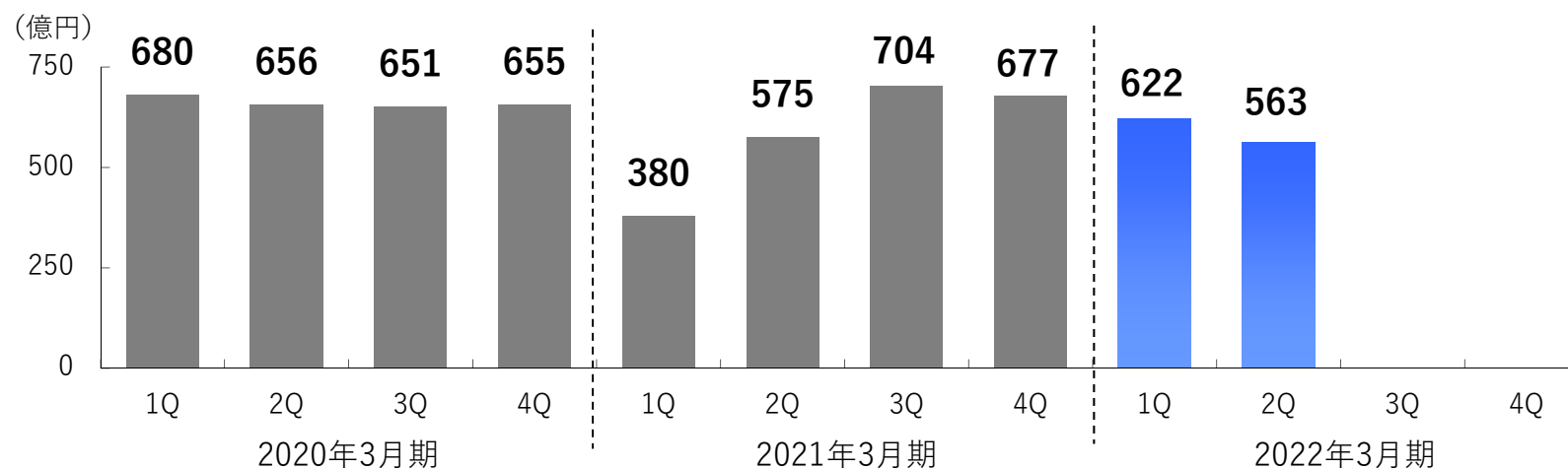
◆ 営業利益



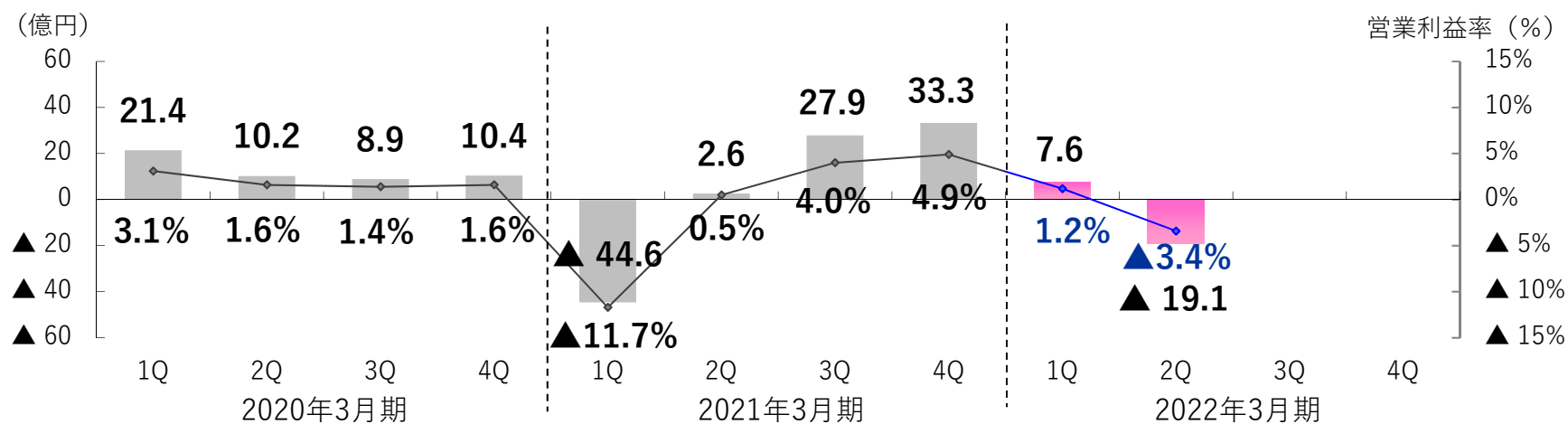
〈連結〉 日本セグメント 四半期推移

10

◆ 売上高



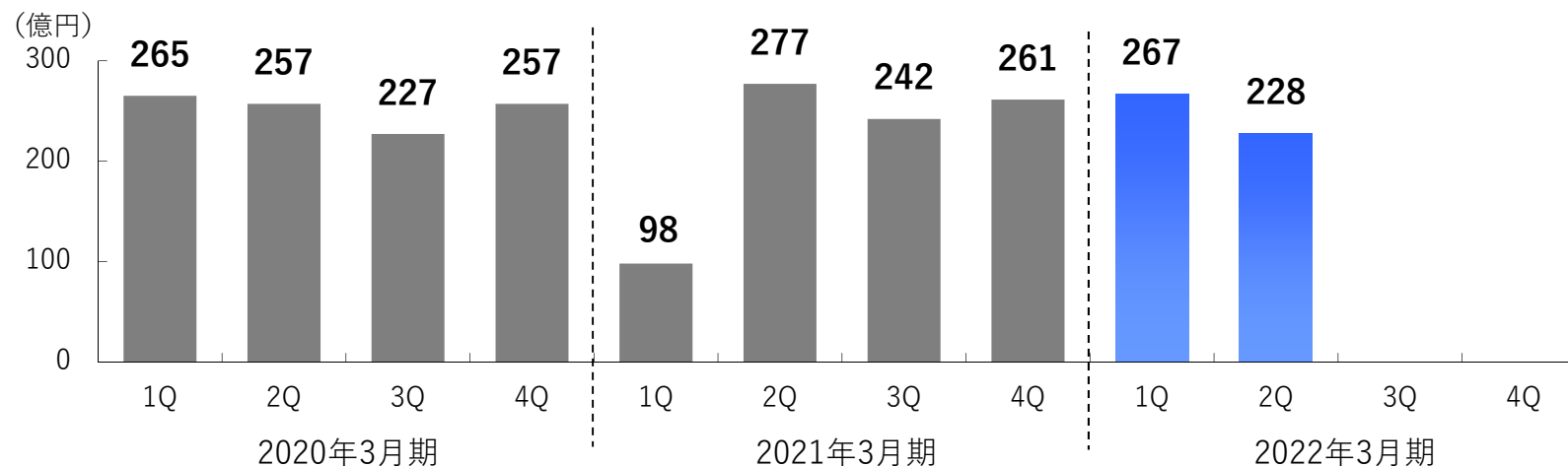
◆ 営業利益



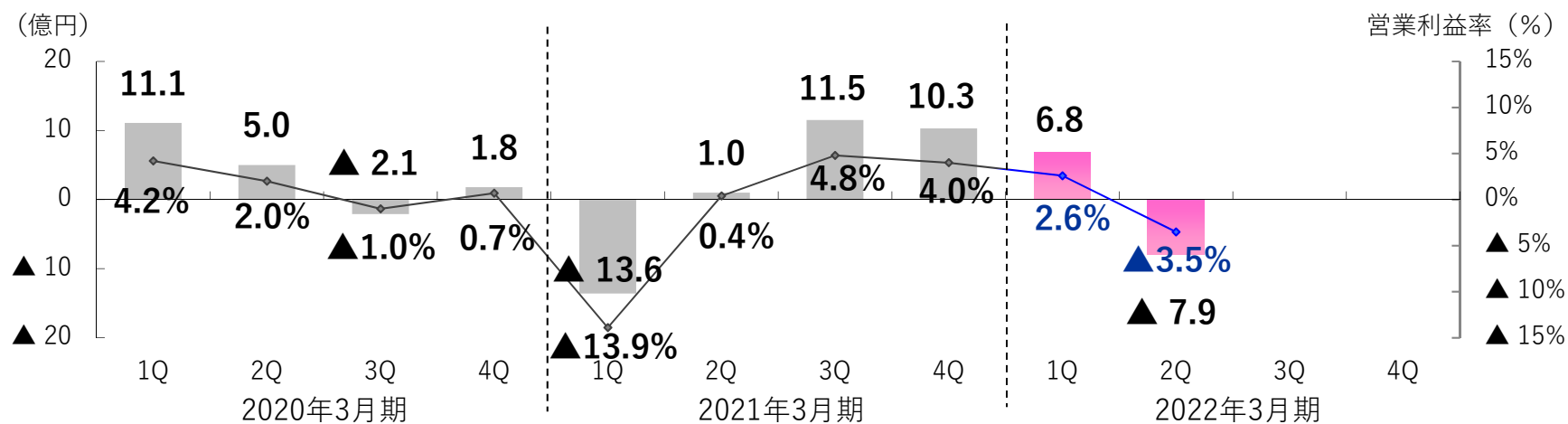
〈連結〉北米セグメント 四半期推移

11

◆ 売上高



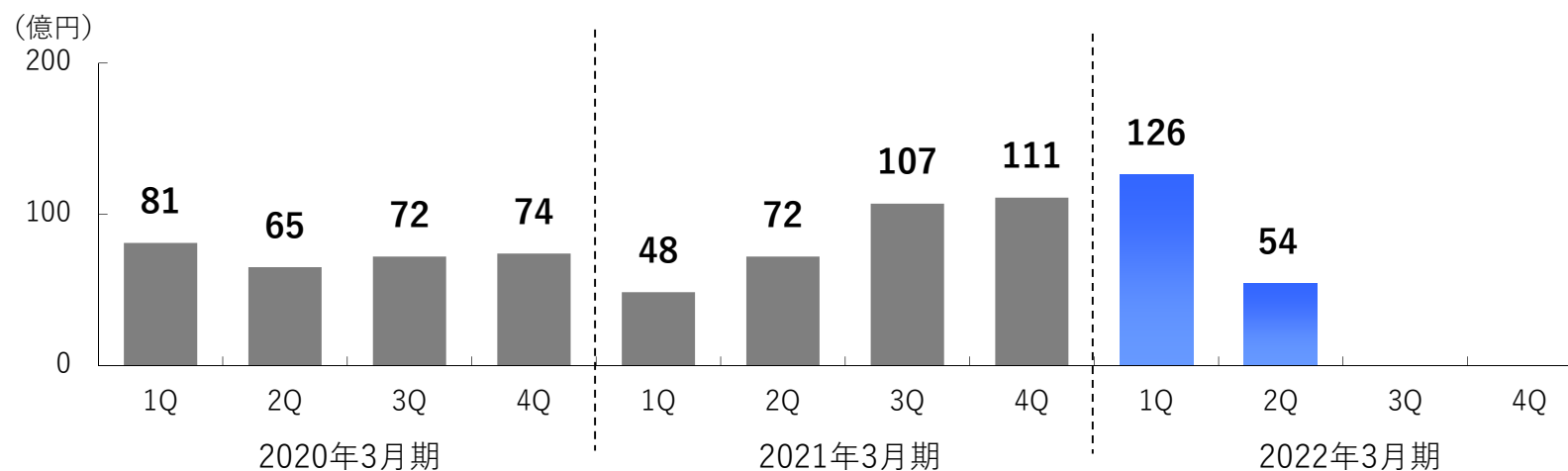
◆ 営業利益



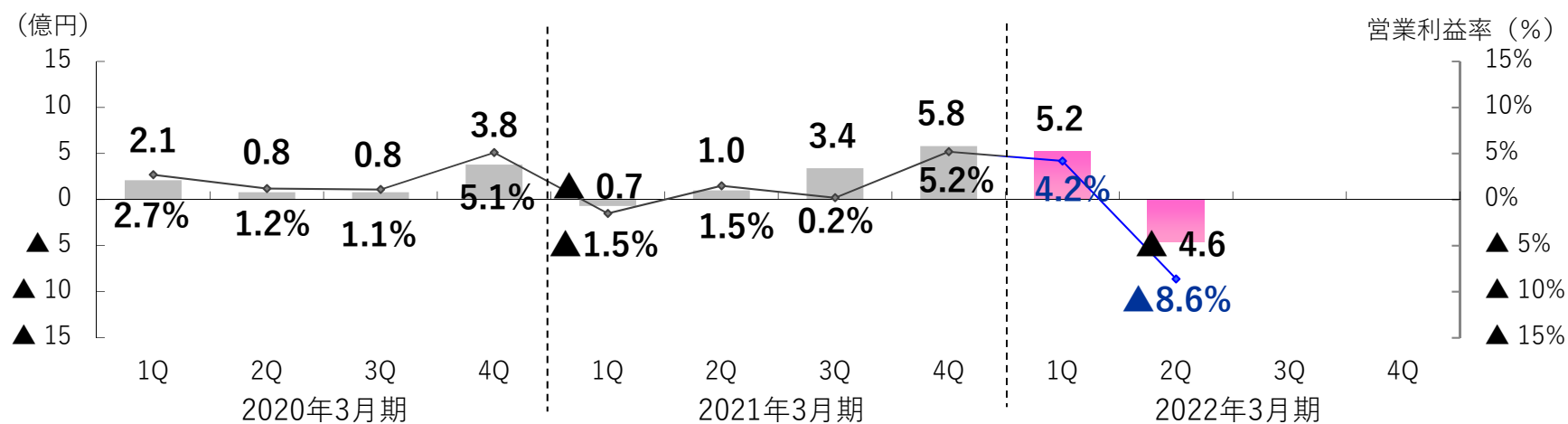
〈連結〉 欧州セグメント 四半期推移

12

◆ 売上高



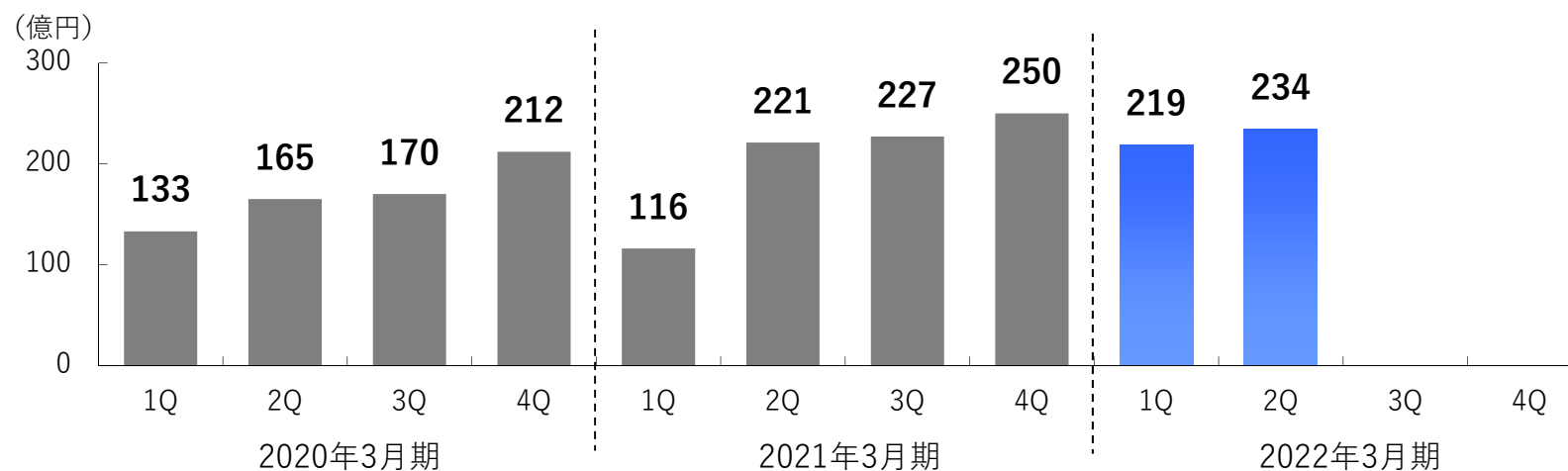
◆ 営業利益



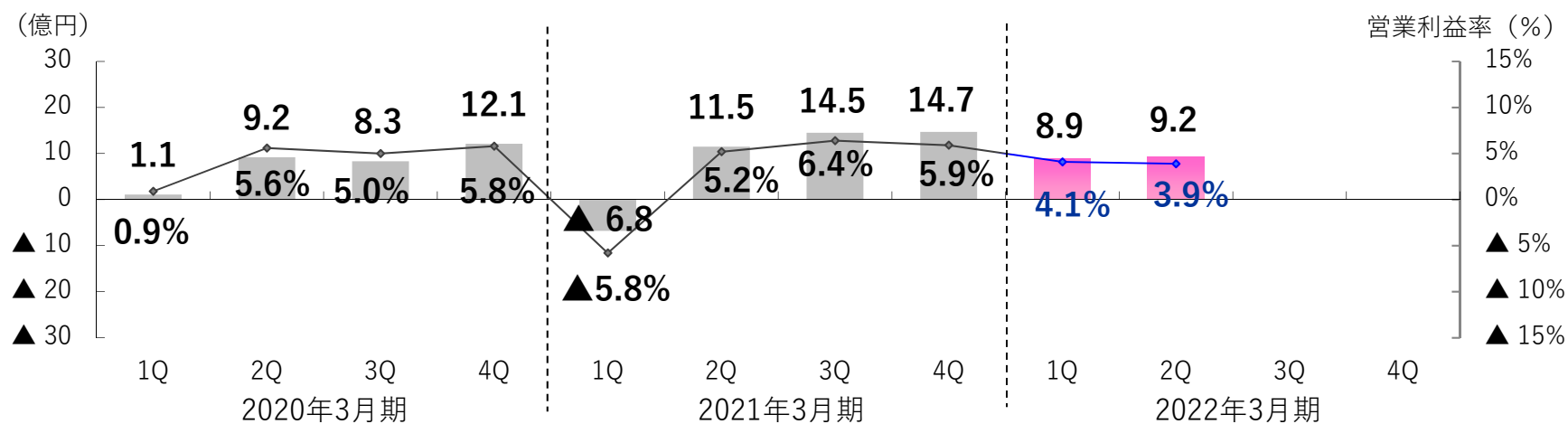
〈連結〉 中国セグメント 四半期推移

13

◆ 売上高



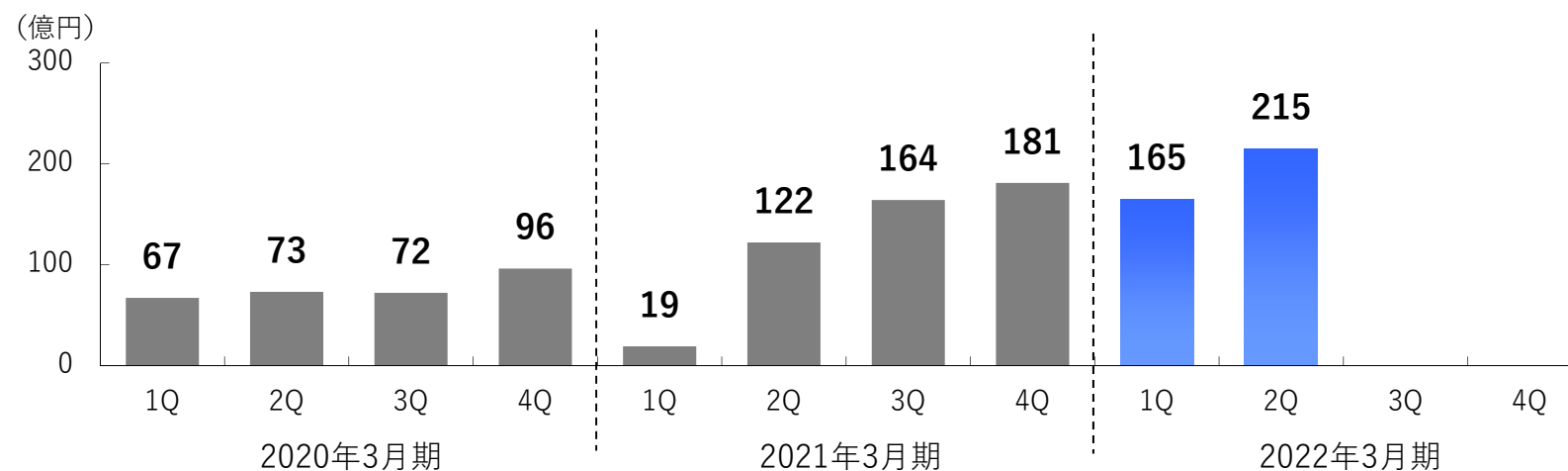
◆ 営業利益



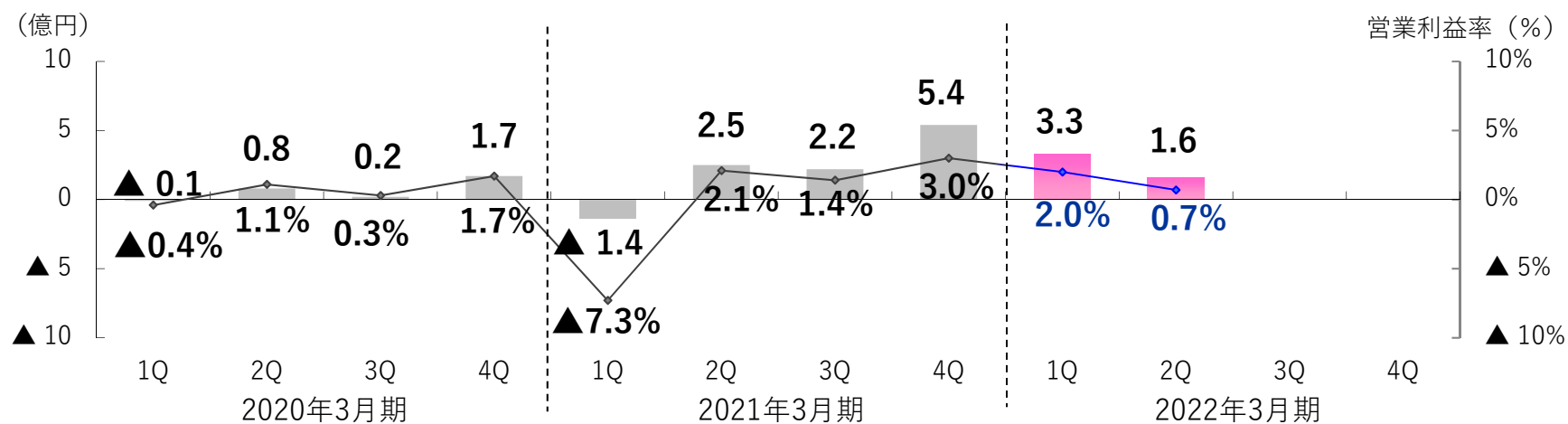
〈連結〉アジアセグメント 四半期推移

14

◆ 売上高



◆ 営業利益



〈連結〉 営業利益以下の内訳

15

単位：百万円

	2022年3月期 2Q累計実績	2021年3月期 2Q累計実績	増減
営業利益	1,297	▲4,514	+5,812
営業外収入	1,334	927	+406
受取利息・配当金	198	199	▲1
作業くず売却益	299	97	+202
為替差益	207	8	+198
持分法による投資利益	274	—	+274
雑収入	355	621	▲265
営業外支出	959	768	+191
支払利息	378	411	▲32
固定資産廃棄損	440	136	+304
持分法による投資損失	—	154	▲154
雑損失	140	66	+74
経常利益	1,672	▲4,355	+6,028
特別利益	99	—	+99
特別損失 ※1	1,132	—	+1,132
税引前純利益	639	▲4,355	+4,994
法人税等	617	498	+119
法人税等調整額	806	▲526	+1,333
当期純利益	▲785	▲4,327	+3,542
非支配株主に帰属する 当期純利益	574	47	+527
親会社株主に帰属する 当期純利益	▲1,359	▲4,374	+3,015

※1 中国子会社(双叶深圳)譲渡に伴う売却損
1,125百万円

〈連結〉 得意先別売上高 前年同期比

16

() 内は売上高比率 単位：億円

	2022年3月期 2Q累計実績		2021年3月期 2Q累計実績		増減	増減率
※1 トヨタグループ	1,805	(68.5%)	1,415	(75.8%)	+389	+27.5%
スズキ	384	(14.6%)	167	(9.0%)	+217	+130.2%
三菱自動車	127	(4.8%)	43	(2.4%)	+83	+191.2%
本田技研	54	(2.1%)	41	(2.2%)	+12	+23.9%
三菱ふそう	32	(1.2%)	26	(1.4%)	+6	+16.1%
※2 日産グループ	28	(1.1%)	24	(1.3%)	+3	+31.0%
富士フイルムBI	17	(0.7%)	44	(2.4%)	▲26	▲59.6%
その他	185	(7.0%)	101	(5.5%)	+83	+83.0%
合計	2,636	(100.0%)	1,864	(100.0%)	+771	+41.4%

※1 トヨタグループには、ダイハツ、日野自動車等を含む

※2 日産グループには、日産車体を含む

個別決算概況

単位：百万円

	2022年3月期 2Q累計実績	2021年3月期 2Q累計実績	増減	増減率
売上高	117,611	95,159	+22,452	+23.6%
営業利益	▲1,407 (▲1.2%)	▲4,133 (▲4.3%)	+2,726	—
経常利益	2,190 (1.9%)	▲2,135 (▲2.2%)	+4,325	—
当期純利益	878 (0.7%)	▲2,236 (▲2.3%)	+3,114	—

※（ ）内は売上高比率を表示

〈個別〉 営業利益の増減分析 前年同期比

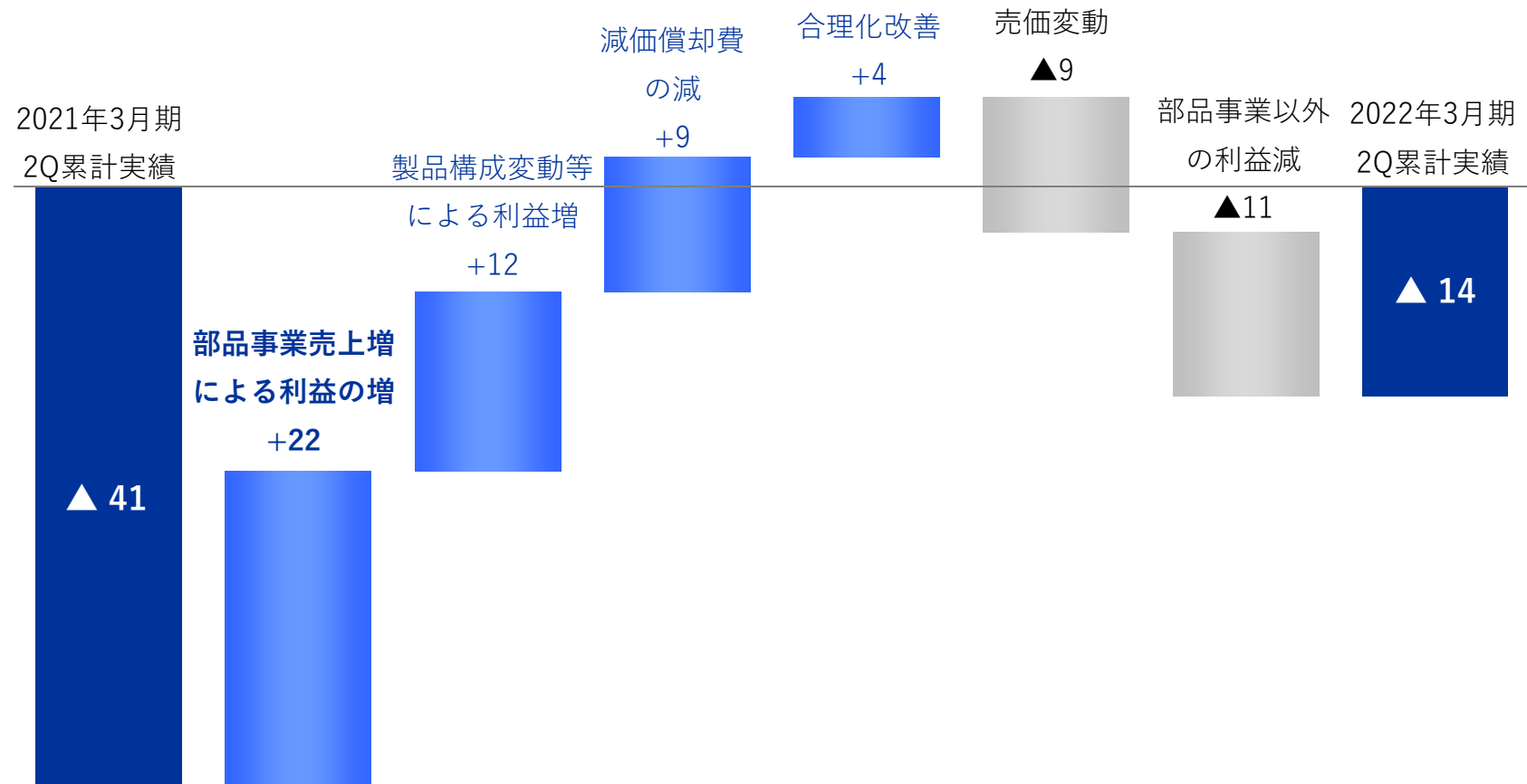
19

営業利益の増減 **+27億円** (▲41億円 → ▲14億円)

1Q : +45億円 2Q : ▲18億円

単位：億円

■ 増益要因
■ 減益要因

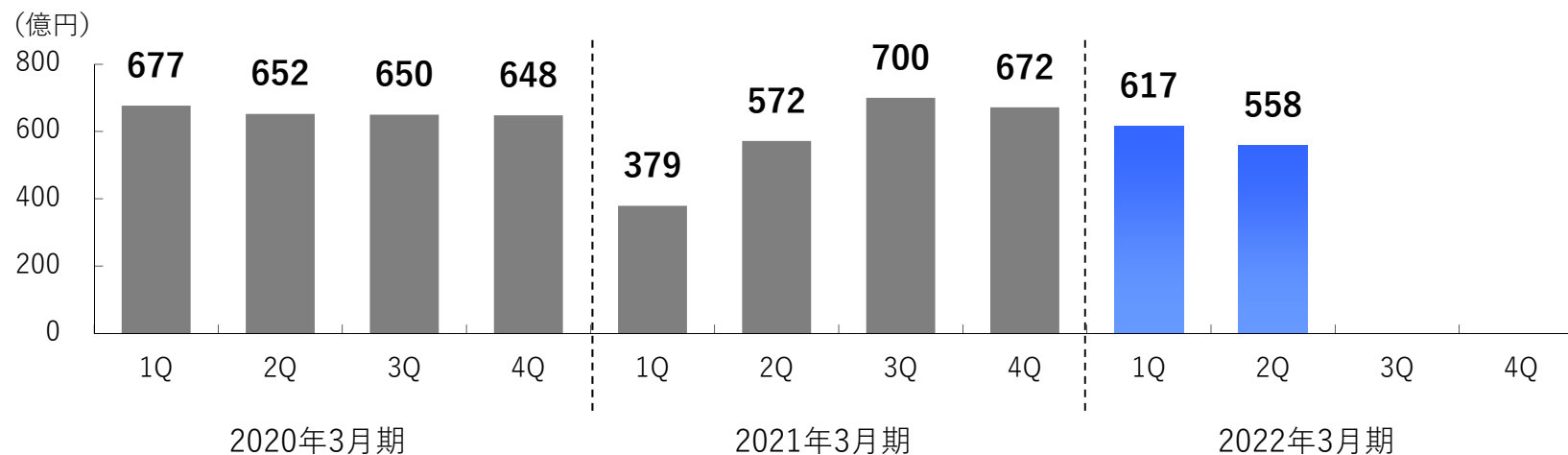


1Q	▲41	+29	+17	+6	+2	▲5	▲4	4
2Q	0	▲ 7	▲ 5	+3	+2	▲4	▲7	▲18

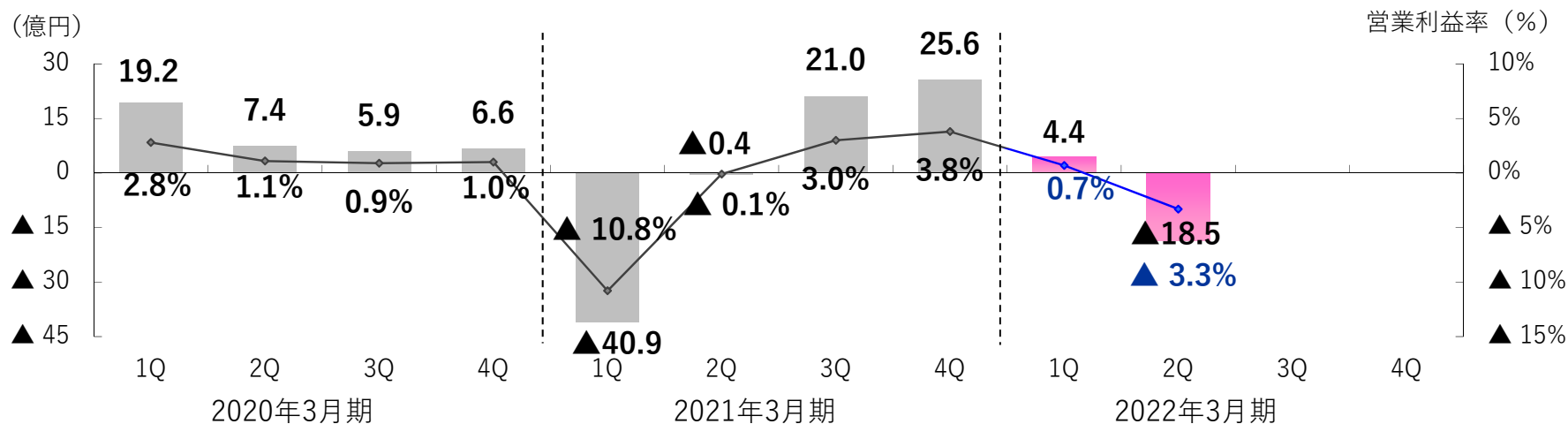
〈個別〉売上高と営業利益の四半期推移

20

◆ 売上高



◆ 営業利益



〈個別〉得意先別売上高 前年同期比

21

() 内は売上高比率 単位：億円

	2022年3月期 2Q累計実績		2021年3月期 2Q累計実績		増減	増減率
※1 トヨタグループ	739	(62.9%)	674	(70.8%)	+65	+9.7%
三菱自動車	111	(9.4%)	28	(2.9%)	+83	+302.8%
スズキ	71	(6.0%)	46	(4.8%)	+25	+55.5%
三菱ふそう	32	(2.7%)	26	(2.7%)	+6	+23.9%
※2 日産グループ	22	(1.9%)	22	(2.3%)	+0	+0.9%
本田技研	2	(0.2%)	2	(0.3%)	▲0	▲14.2%
富士フイルムBI	6	(0.5%)	7	(0.7%)	▲1	▲12.9%
その他	193	(16.4%)	146	(15.5%)	+45	+30.8%
合計	1,176	(100.0%)	951	(100.0%)	+225	+23.6%

※1 トヨタグループには、ダイハツ、日野自動車等を含む

※2 日産グループには、日産車体を含む

1. 2022年3月期 第2四半期 決算概況

2. 2022年3月期 通期業績見通し

参考資料

〈連結〉通期業績見通し

23

2Q累計実績及び3Q,4Qの見直し計画を踏まえ、7/29公表の通期業績予想を修正

売上高：**5,970億円** 営業利益：**80億円**

※実質売上高：**5,270億円** ※支給品単価上昇影響(約700億円)を除くと実質減収

単位：億円

	2022年3月期 公表値			7/29 公表値	増減	増減率	2021年3月期 通期実績	増減
	2Q累計 実績	3Q+4Q 見通し	通期 見通し					
売上高	2,636 (100.0%)	3,333 (100.0%)	5,970 (100.0%)	5,470 (100.0%)	+500	+9.1%	4,668 (100.0%)	+1,302
営業利益	12 (0.5%)	67 (2.0%)	80 (1.3%)	112 (2.0%)	▲32	▲28.6%	77 (1.7%)	+2
経常利益	16 (0.6%)	65 (2.0%)	82 (1.4%)	111 (2.0%)	▲29	▲26.1%	79 (1.7%)	+3
親会社株主に 帰属する 当期純利益	▲13 (▲0.5%)	46 (1.4%)	33 (0.6%)	72 (1.3%)	▲39	▲54.2%	40 (0.9%)	▲7

※（）内は売上高比率を表示

為替レート (1ドル)	110.0円	105.0円	106.1円	3.9円円安
----------------	--------	--------	--------	--------

〈連結〉セグメント別売上高と営業利益見通し

24

単位：億円

		2022年3月期 通期公表値	7/29 公表値	増減	増減率	2021年3月期 通期実績	増減
日 本	売上高	2,630	2,540	+90	+3.5%	2,338	+292
	営業利益	3 (0.1%)	35 (1.4%)	▲32	▲91.4%	19 (0.8%)	▲16
北 米	売上高	1,240	1,040	+200	+19.2%	880	+360
	営業利益	20 (1.6%)	13 (1.3%)	+7	+53.8%	9 (1.1%)	+11
欧 州	売上高	510	530	▲20	▲3.8%	342	+168
	営業利益	7 (1.4%)	13 (2.5%)	▲6	▲46.2%	9 (2.8%)	▲2
中 国	売上高	960	900	+60	+6.7%	817	+143
	営業利益	35 (3.6%)	36 (4.0%)	▲1	▲2.8%	34 (4.2%)	+1
アジア	売上高	770	610	+160	+26.2%	486	+284
	営業利益	11 (1.4%)	13 (2.1%)	▲2	▲15.4%	8 (1.8%)	+3
連結調整	売上高	▲140	▲150	+10		▲195	+55
	営業利益	4	2	+2		▲3	+7
合 計	売上高	5,970	5,470	+500	+9.1%	4,668	+1,302
	営業利益	80 (1.3%)	112 (2.0%)	▲32	▲28.6%	77 (1.7%)	+2

※（ ）内は売上高比率を表示

〈連結〉 客先有償支給品除く損益の状況

25

◆ 支給品込み

	2022年3月期 通期見通し	2021年3月期 通期実績	増減
売上高	5,970	4,668	+1,302
営業利益	80 (1.3%)	77 (1.7%)	+2

◆ 支給品除き

単位: 億円

	2022年3月期 通期見通し	2021年3月期 通期実績	増減
	3,300 [44.7%]	2,830 [39.4%]	+470
営業利益	80 (2.4%)	77 (2.7%)	+2

(注) () 内は営業利益率を表示
[] 内は支給品比率を表示

〈連結〉 客先有償支給品除く損益の状況

26

◆ 支給品込み

		2022年3月期 通期見通し	2021年3月期 通期実績	増減
日 本	売上高	2,630	2,338	+292
	営業利益	3 (0.1%)	19 (0.8%)	▲16
北 米	売上高	1,240	880	+360
	営業利益	20 (1.6%)	9 (1.1%)	+11
欧 州	売上高	510	342	+168
	営業利益	7 (1.4%)	9 (2.8%)	▲2
中 国	売上高	960	817	+143
	営業利益	35 (3.6%)	34 (4.2%)	+1
アジア	売上高	770	486	+284
	営業利益	11 (1.4%)	8 (1.8%)	+3
連結調整	売上高	▲140	▲195	
	営業利益	4	▲3	
合 計	売上高	5,970	4,668	+1,302
	営業利益	80 (1.3%)	77 (1.7%)	+2

◆ 支給品除き

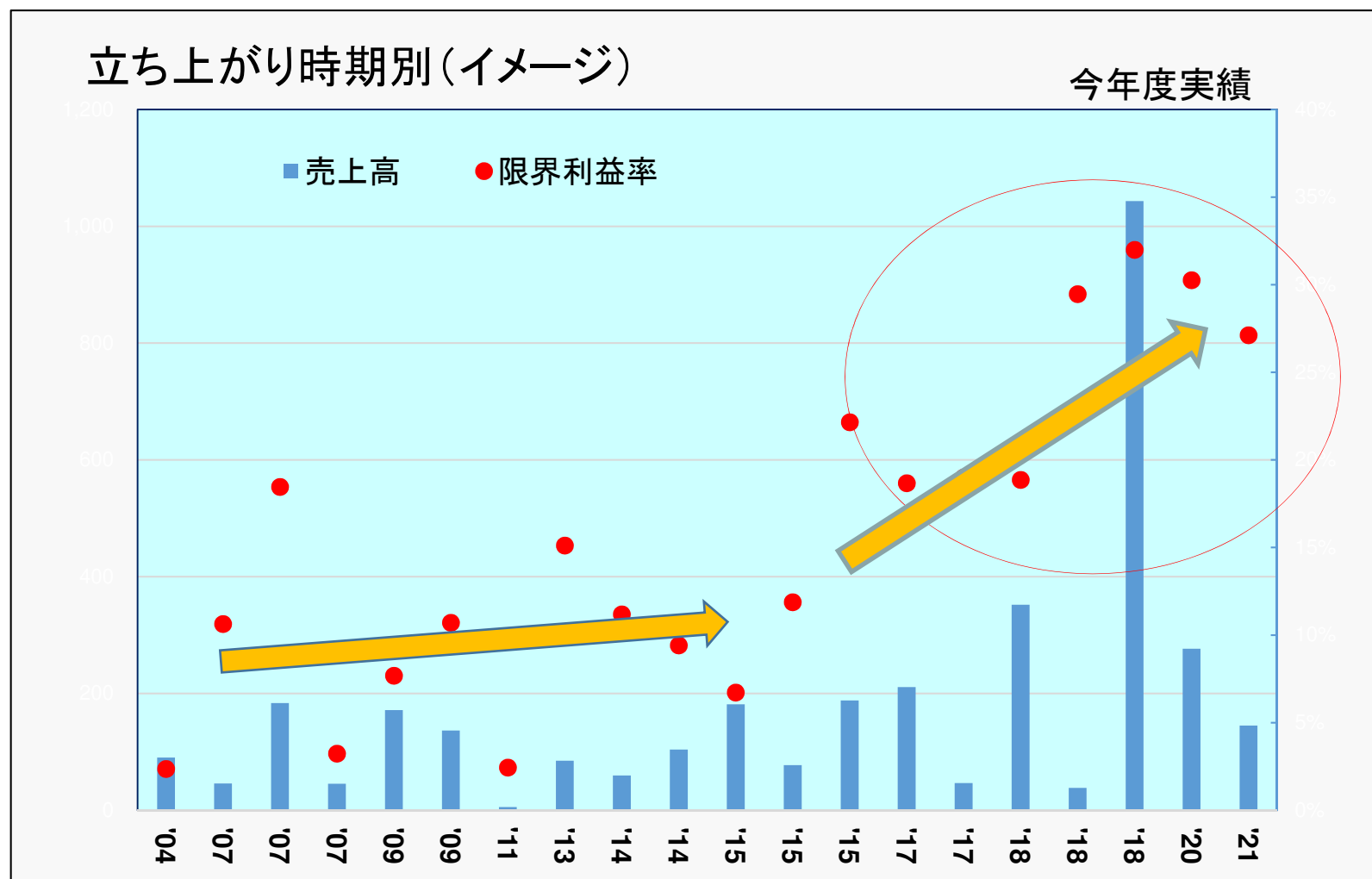
単位: 億円

	2022年3月期 通期見通し	2021年3月期 通期実績	増減
	1,670	1,563	+107
	3 (0.2%)	19 (1.2%)	▲16
	610	534	+76
	20 (3.3%)	9 (1.7%)	+11
	300	220	+80
	7 (2.3%)	9 (4.1%)	▲2
	670	619	+51
	35 (5.2%)	34 (5.5%)	+1
	190	88	+102
	11 (5.8%)	8 (9.1%)	+3
	▲140	▲195	
	4	▲3	
	3,300	2,830	+470
	80 (2.4%)	77 (2.7%)	+2

1. 2022年3月期 第2四半期 決算概況

2. 2022年3月期 通期業績見通し

参考資料



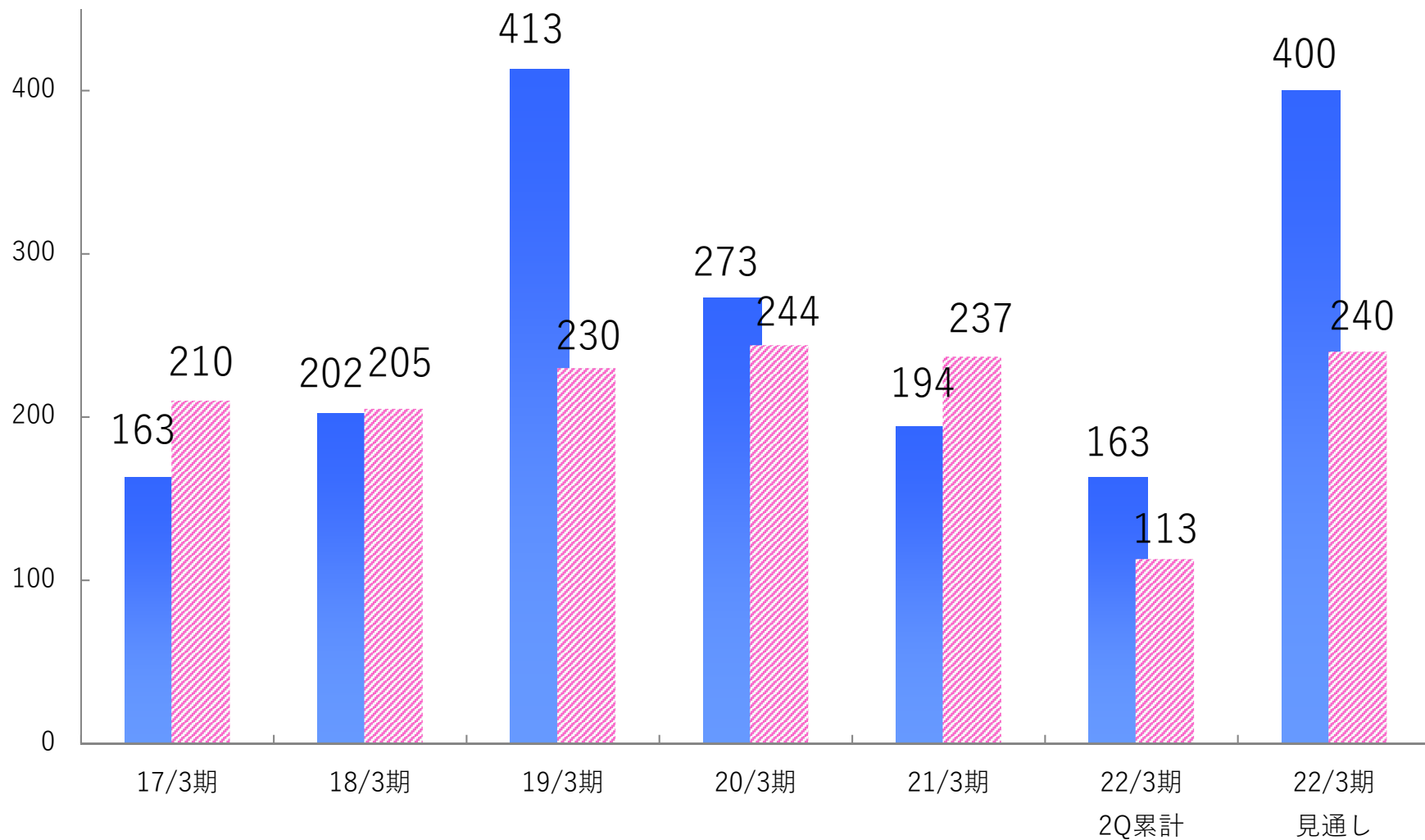
新5カ年計画の取り組み成果により新規切替プロジェクトの
利益率は上向いており、収益は確実に向上している

〈連結〉 設備投資額と減価償却費の推移

29

単位：億円

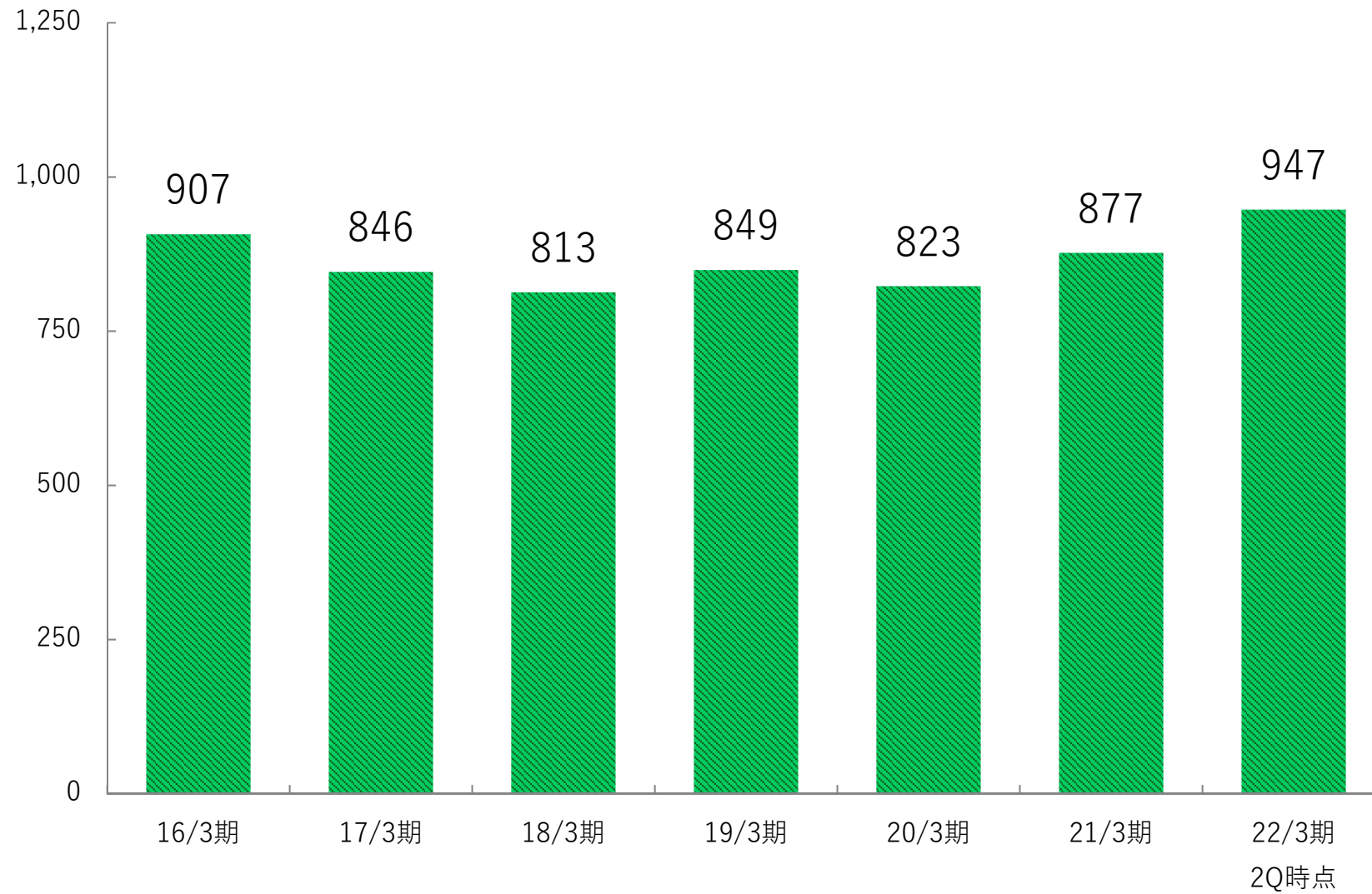
■ 設備投資額 ▨ 減価償却費

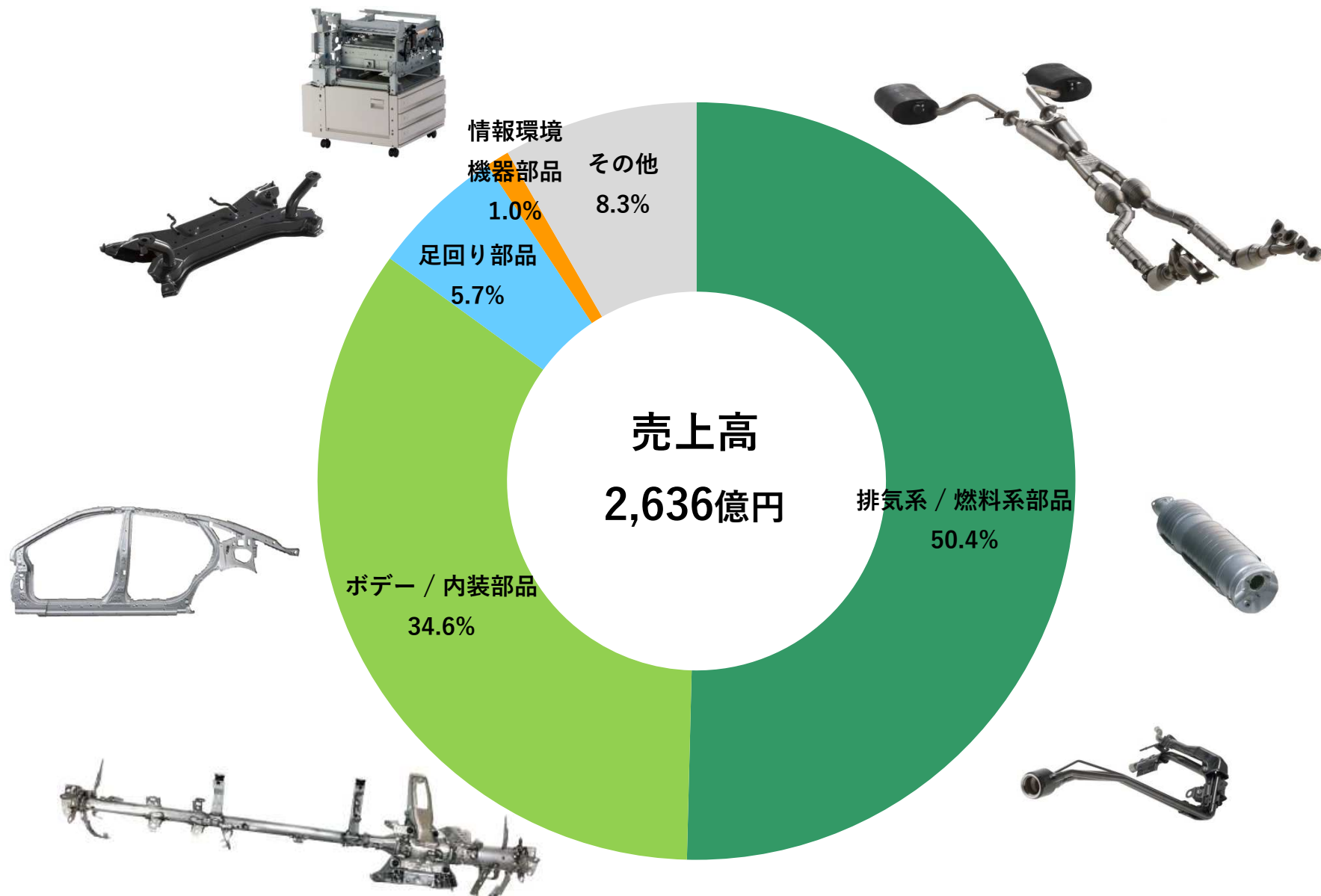


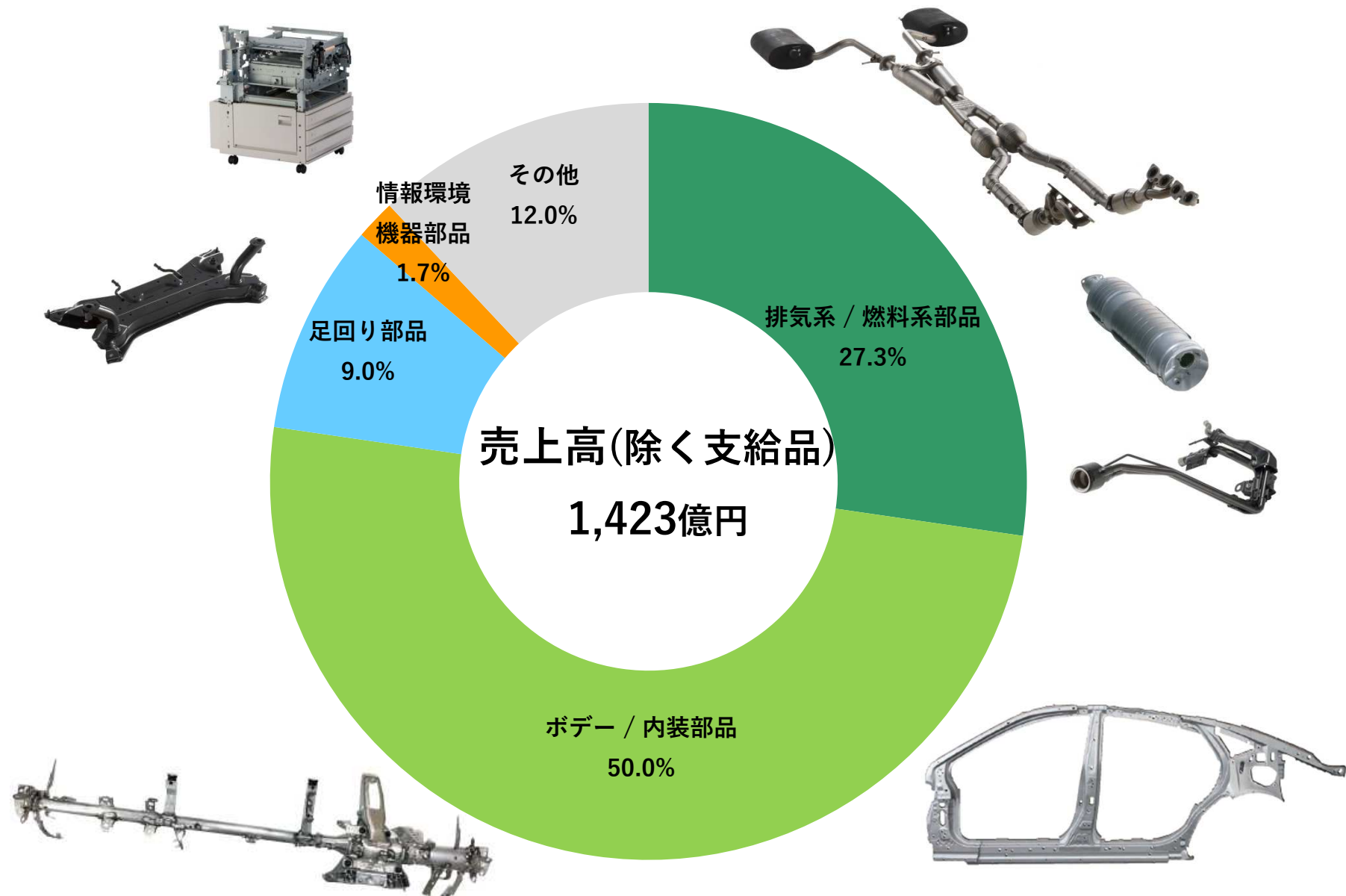
〈連結〉 有利子負債残高の推移

30

単位：億円







本資料に記載される当社（連結子会社を含む）の見通し等は、当社が現在入手している情報に基づき当社の経営者が判断した見通しであり、リスクや不確実性を含んでいます。従って、これらの業績見通し等のみに全面的に依拠して投資判断を下すことは控えるようお願い申し上げます。実際の業績は、様々な重要な要素により、これらの業績見通しとは大きく異なる結果となり得ることをご承知ください。実際の業績に影響を与え得る重要な要素には、当社、連結子会社および持分法適用会社の事業領域を取り巻く経済情勢、市場の動向、対米ドルをはじめとする円の為替レートなどが含まれます。

本資料に掲載のあらゆる情報はフタバ産業株式会社に帰属しております。手段・方法を問わず、いかなる目的においても当社の事前の書面による承認なしに、複製・変更・転載・転送等を行わないようお願いいたします。

本資料では、業績の概略を把握していただく目的で、一部の数値を億円単位にて表示しております。百万円単位にて管理している原数値を丸めて表示しているため、本資料に表示されている合計額、差額などが1億円の桁において、不正確と見える場合があります。

FUTABA

フタバ産業株式会社

<https://www.futabasangyo.com/>

2021～2023年度 中期経営方針進捗状況



2021年11月18日
フタバ産業株式会社
(#7241)

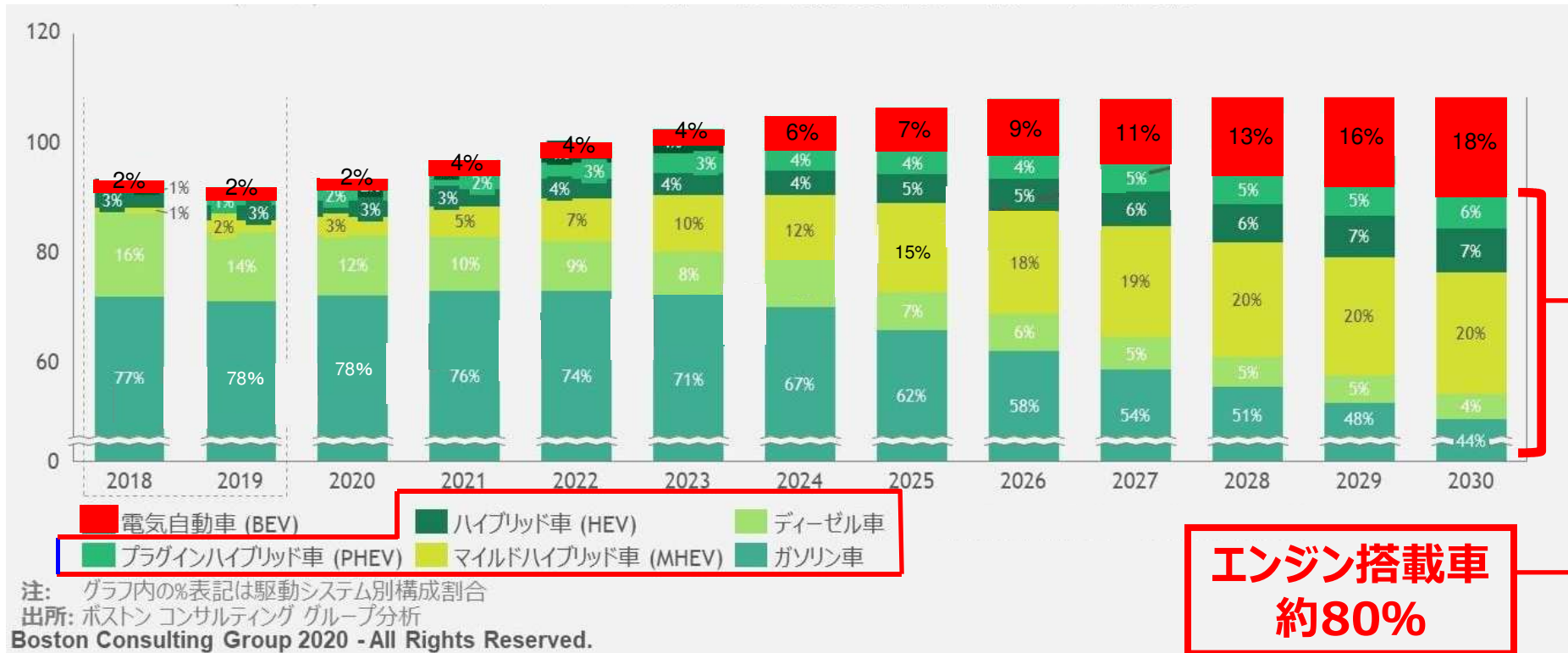
1. 現状認識と将来の方向性
2. 重点取り組み進捗（DX）
3. 重点取り組み進捗（気候変動対応）
4. 行動宣言

1. 現状認識と将来の方向性

37

電動車の普及予測

世界新車販売台数（百万台）



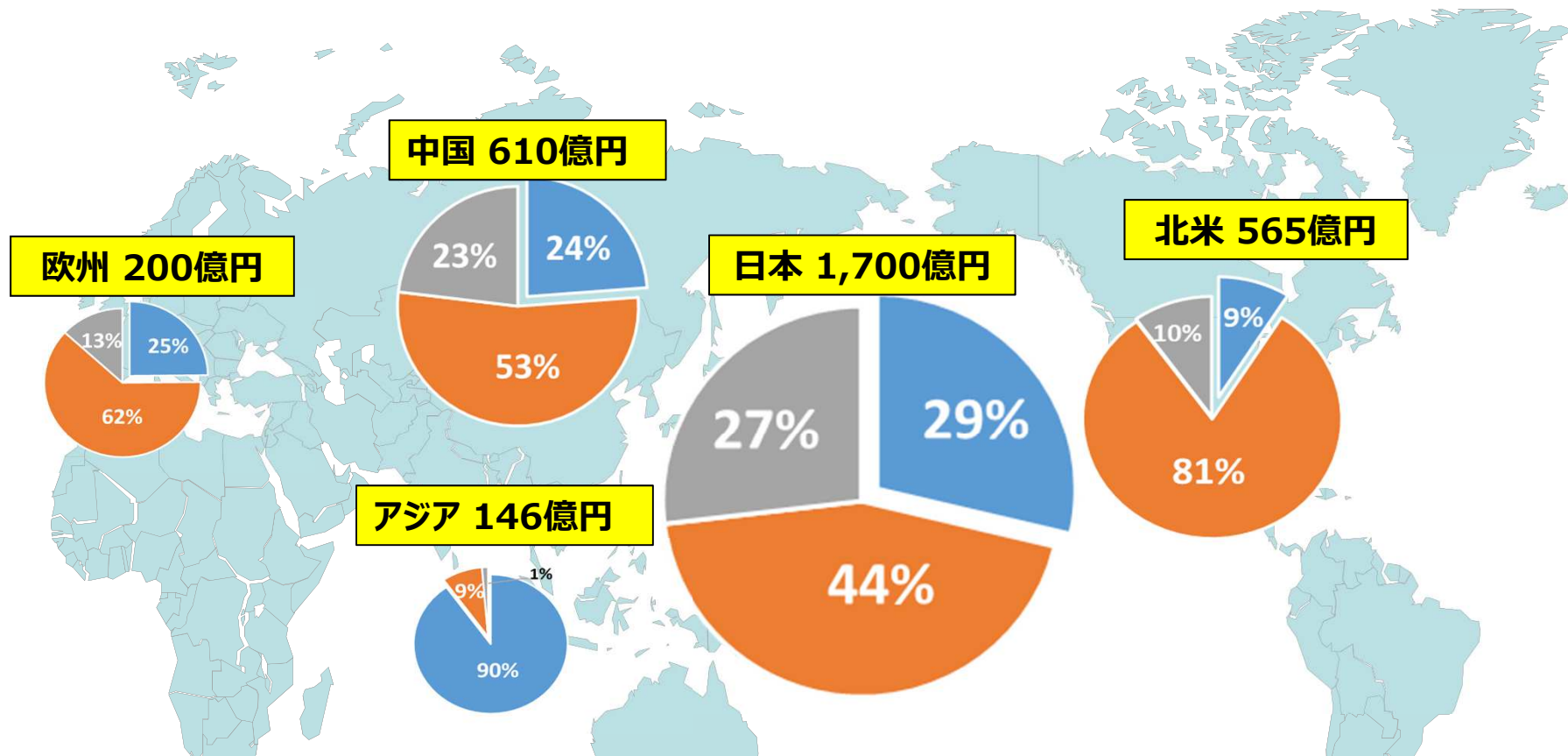
電動車は増加していくが、2030年ではエンジン搭載車が約80%を占めており、排気系/燃料系部品の需要は継続

1. 現状認識と将来の方向性

38

2020年度部品別・地域別売上（支給品レス）

■ 排気系/燃料系部品 ■ ボデー系部品 ■ その他



排気系/燃料系部品の需要は継続
お客様のCASE対応でボデー系ビジネスの期待の高まり
⇒将来の排気系/燃料系部品、ボデー系部品をビジネスプランニング

2. 重点取り組み進捗 (DX)



39

<ミッション、目的>

お客様が求める新たな商品・ソリューションを創造し、素早く商品化
できる仕事のやり方(人、組織、企業風土)へ変革
⇒競争力を高め、全てのステークホルダーに対し魅力ある会社へ

マーケティング・リサーチ、価値創造

新しい付加価値商品・サービスを提案

開発プロセスの革新

企画・設計から生産・評価まで3Dデータ、
シミュレーション、AIを活用し、同時並行化

生産プロセスの革新

全工場の生産管理を一箇所でコントロール
【Virtual One Factory】
デジタルツール活用による効率生産、自動化
【Smart Factory】

2. 重点取り組み進捗 (DX)



40

マーケティング・リサーチ、価値創造

ボデー系商品の新たなビジネスモデル

●開発の強化

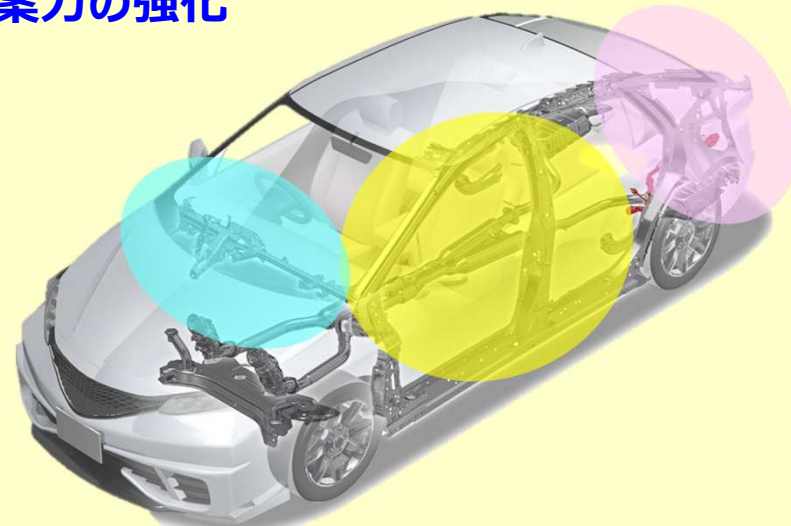
＜開発人員の拡充＞ 2018年度比

- 解析人員：2021年度 7倍
- 設計人員：2021年度 2倍

＜設備の拡充＞ 解析設備は2018年度比

- 解析設備：処理能力
(コンピューター) 2021年度 21倍
解析用ソフト 2021年度 3倍
- 評価体制：鉄鋼メーカーと協業で
評価・解析

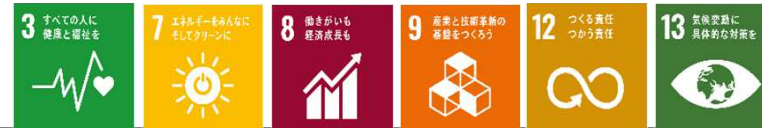
●提案力の強化



ゾーンでの解決提案 ⇒ 事業拡大を推進

	企画 構想	構想開発・設計	評価・解析	図面 発行	作り方 検討	生産		
						小規模組立	中規模組立	完成車
現状	お客様				フタバ		お客様	
目指す姿		フタバ						

2. 重点取り組み進捗 (DX)

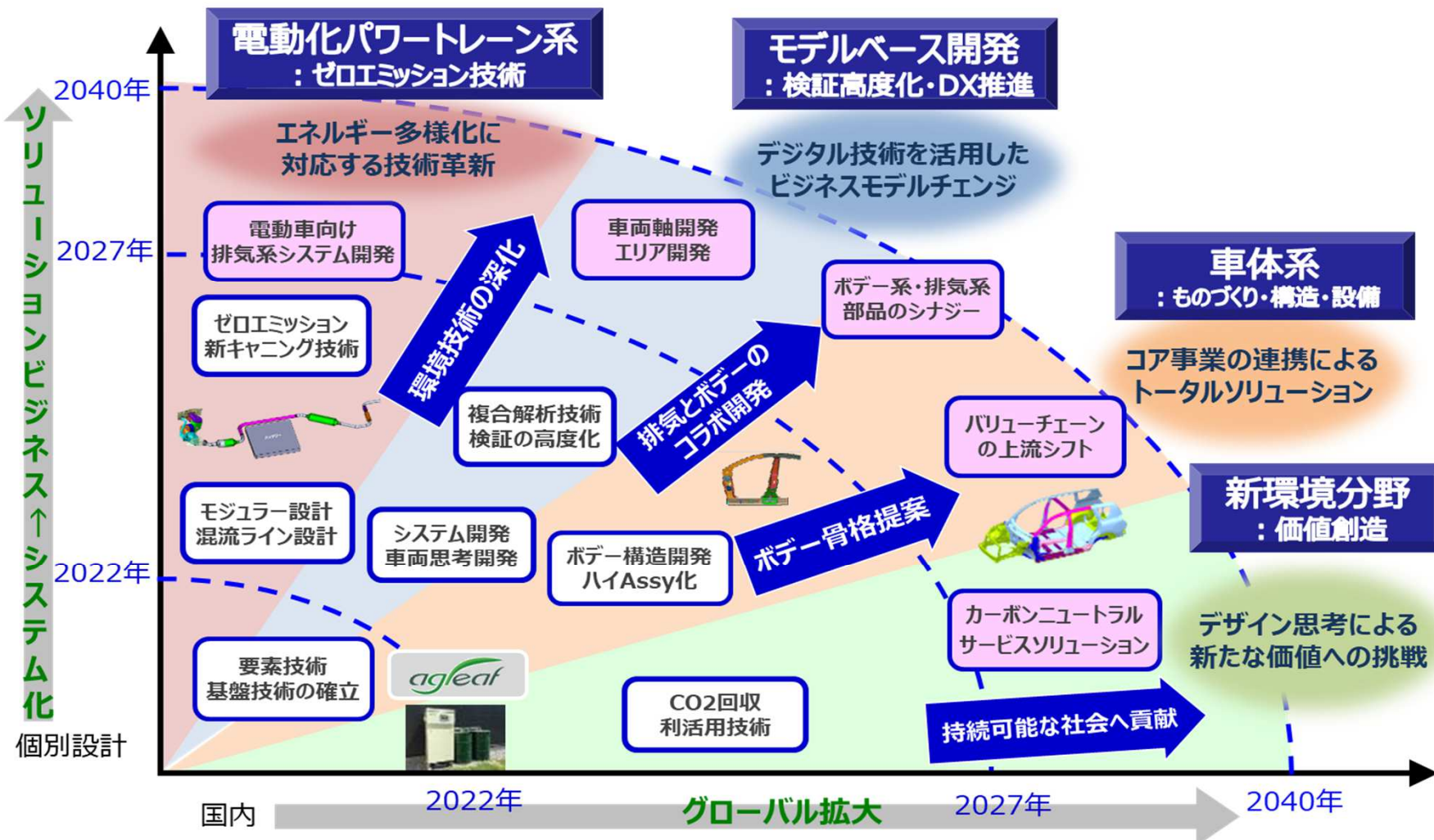


41

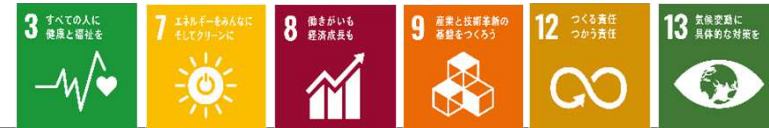
マーケティング・リサーチ、価値創造

開発強化取組みのロードマップ

カーボンニュートラルに貢献する
環境技術開発の強化



2. 重点取り組み進捗 (DX)

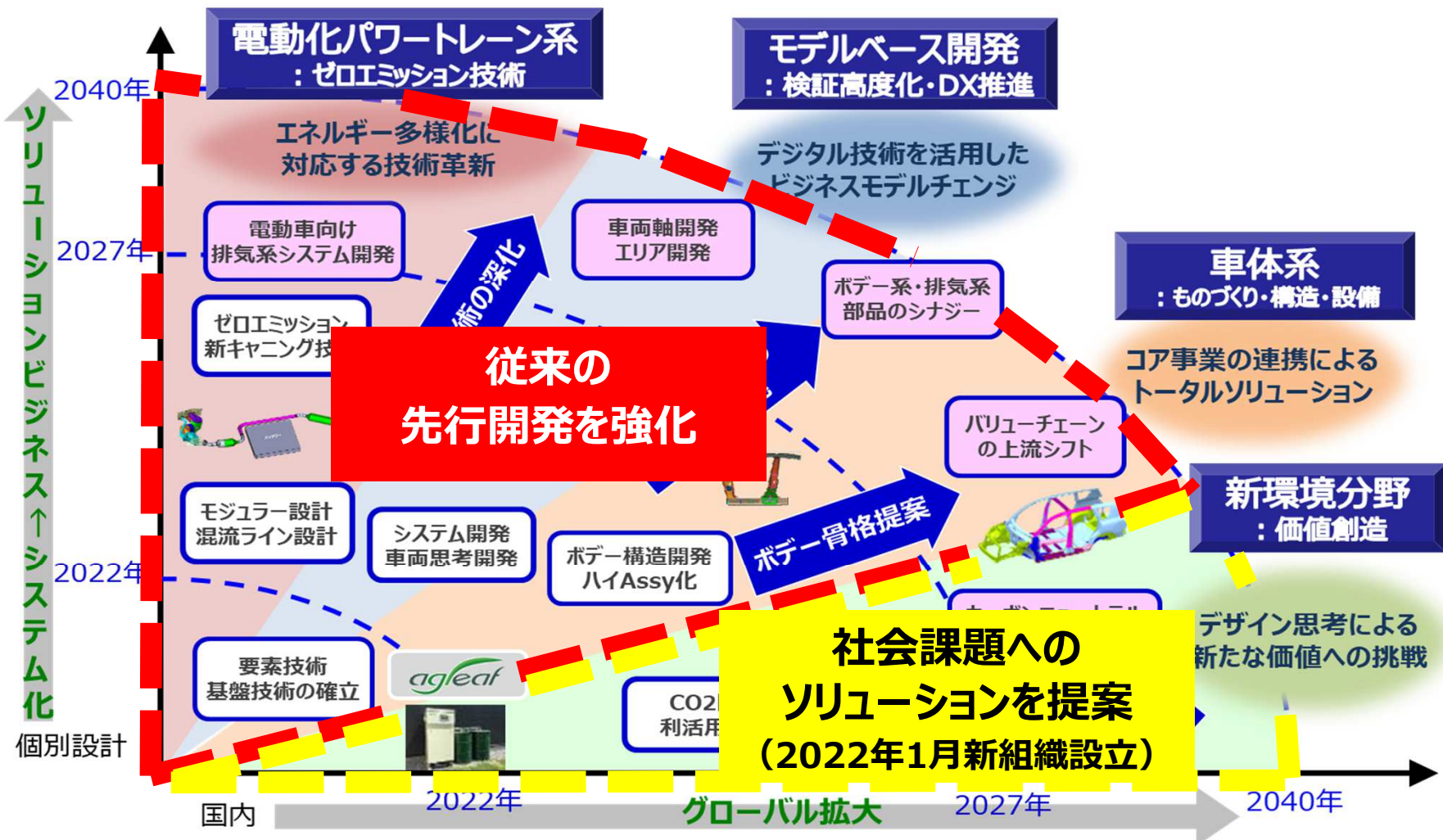


42

マーケティング・リサーチ、価値創造

開発強化取組みのロードマップ

カーボンニュートラルに貢献する
環境技術開発の強化



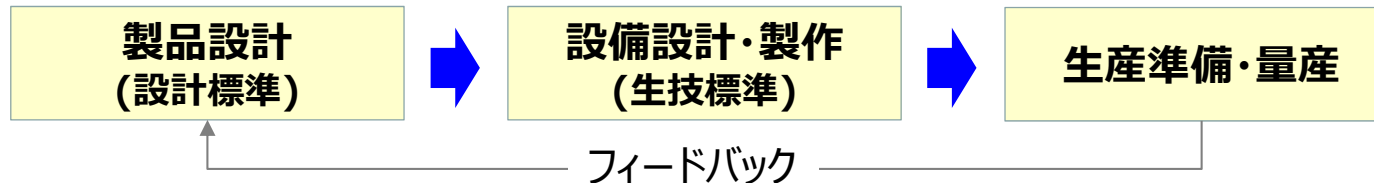
2. 重点取り組み進捗 (DX)



43

開発プロセスの革新

従来:バトンタッチ型プロセス

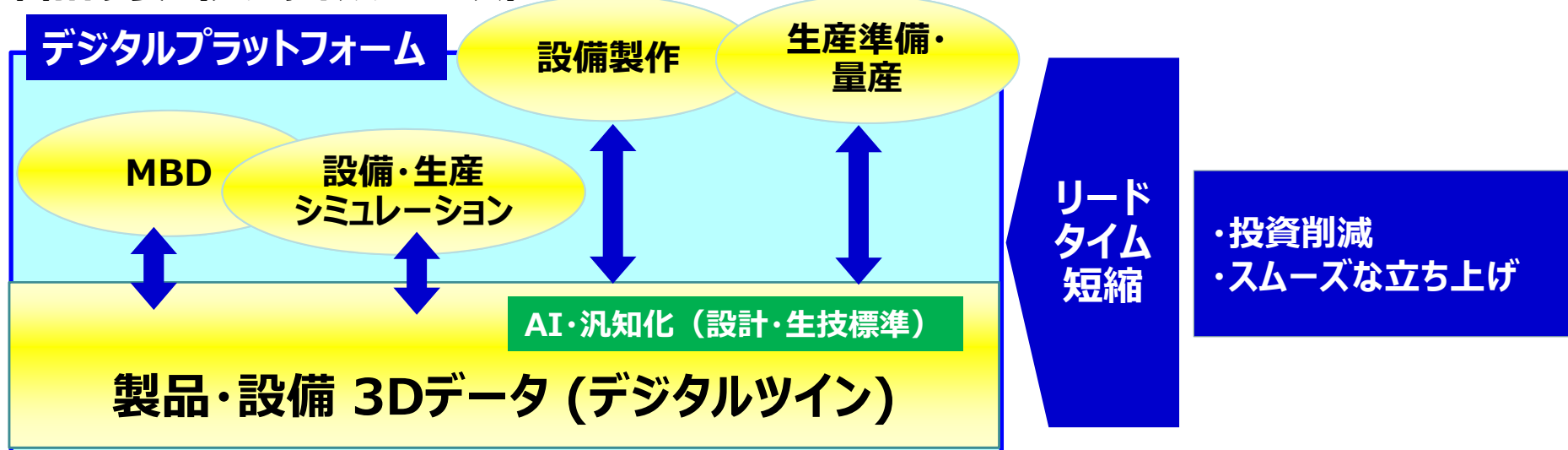


課題

- ・手戻り(トライ&エラー)
- ・工程毎の最適ノウハウ
→設計変更多発

デジタルツール活用

目指す姿 (アジャイルプロセス)

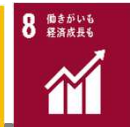


- ・投資削減
- ・スムーズな立ち上げ

取
組
中

- ・属人的なノウハウをAIで汎知化・活用
- ・相反事項の同時解析による仕様のベストバランス化
- ・現場でのリアルな事象のシミュレーションへのフィードバック

2. 重点取り組み進捗 (DX)



44

生産プロセスの革新

<目指す工場の姿>

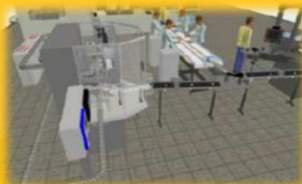
- ・生産リードタイムと在庫のMIN化
- ・低付加価値作業の自動・無人化
- ・可動率、直行率のMAX化

Virtual One Factory



工場の集中・遠隔管理

シミュレーション



生産情報・品質



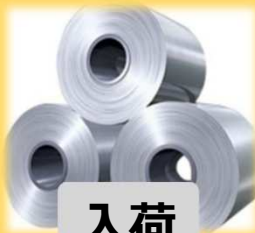
CO₂・エネルギー



生産プロセススルーでのデータ連携・活用

Smart Factory

生産現場での自動化・無人化（搬送・検査・生産）



入荷



スタンピング



工程内物流



組立



出荷

3. 重点取り組み進捗（気候変動対応）



45

気候変動対応への取り組み

CO₂削減目標

➤ 政府の方針

CO₂削減の目標を引き上げ

2030年 ▲26% ⇒ ▲46%（2013年比）

➤ お客様の動向

トヨタ自動車株式会社 カーボンニュートラル達成

2050年 ⇒ 2035年に大幅前倒し

➤ トヨタ系各社も取り組みを加速



<フタバ本体での目標>

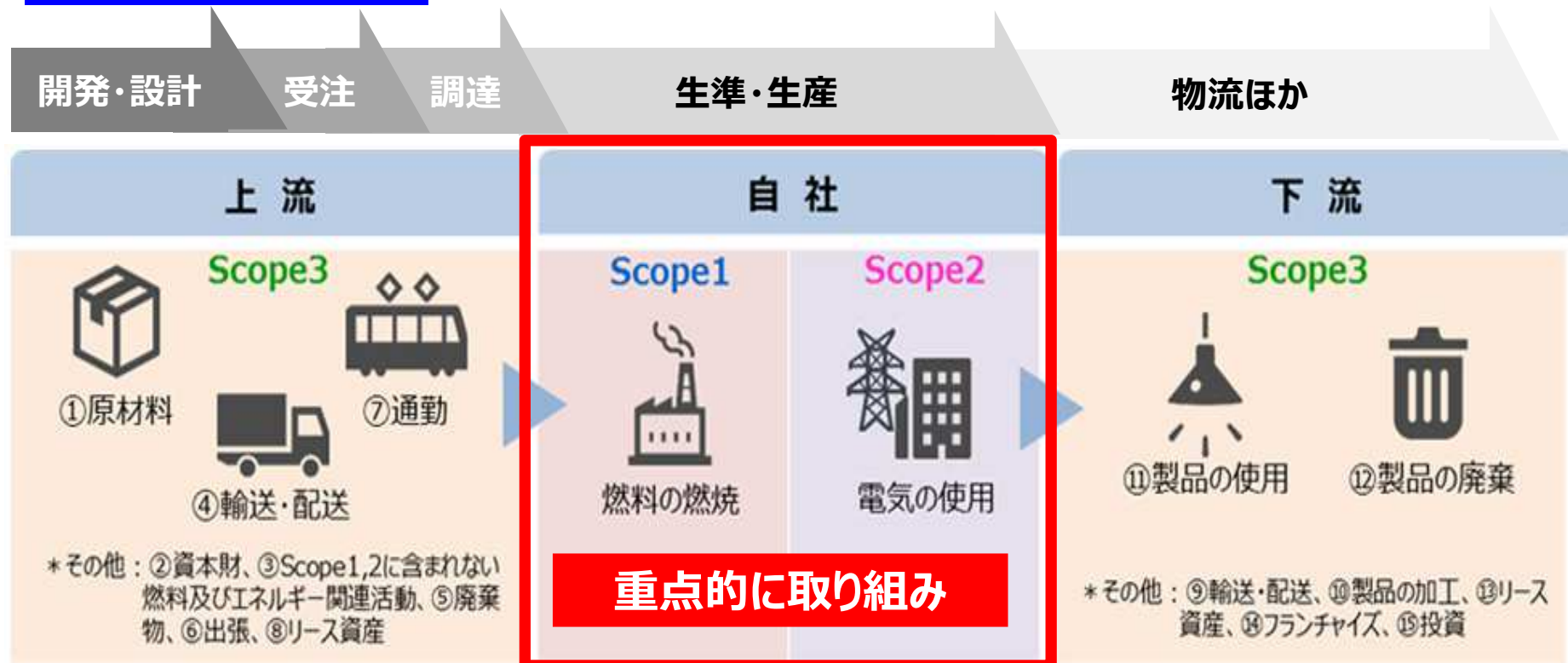
2030年度 ▲50%以上（2013年度比）

3. 重点取り組み進捗（気候変動対応）



46

カーボンニュートラル



Scope1：自社内で発生させるCO2／**Scope2**：自社内で使用する購入電力

Scope3：その他、サプライチェーン領域で使用する燃料および電力、従業員の移動(出張、通勤)等

お客様と密に連携をとりながら、サプライチェーン全体で取り組んでいく

3. 重点取り組み進捗（気候変動対応）



47

TCFD対応

気候関連財務情報開示タスクフォース（TCFD）に対応

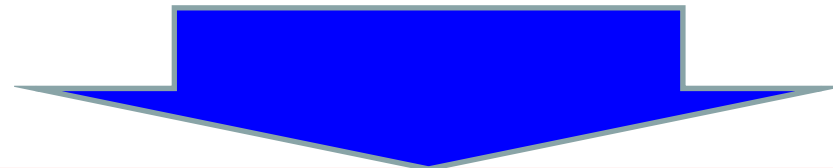
TCFDは2017年6月に最終報告書を公表し、企業等に対し、気候変動関連リスク、及び機会に関する下記の項目の開示を推奨

■ ガバナンス

■ 戦略

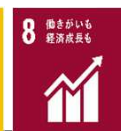
■ リスク管理

■ 指標と目標



**2022年定時株主総会後に発行する
コーポレートガバナンス報告書および
有価証券報告書にてTCFD対応を開示予定**

4. 行動宣言



48

2030年めざす姿

・自ら考え行動し果敢に
挑戦する集団

・モノづくりと技術の
グローバル企業

・創造力と実行力で
持続可能な企業

2030年めざす姿の実現するための行動宣言

お客様の期待を超える『発想』と『知恵』と『素早い実行』で
『環境・安全技術』を提案し、モビリティをコアに社会へ貢献します



FUTABA

フタバ産業株式会社

<https://www.futabasangyo.com/>